

## 平成22年度実施 地域ICT利活用広域連携事業 成果報告書

実施団体名 内灘町・金沢市（連携主体）

代表団体名 内灘町

事業名称 河北潟UFO事業

### 1 事業の目的

河北潟は石川県の2市2町に跨って位置する潟湖です。周辺に位置する自治体は浸水対策に加え、水質悪化に起因する悪臭の防止や景観維持等が急務の課題となっています。

本事業ではこの課題に対し、内灘町と金沢市が連携し、ソーラー環境センサーで採取したデータを共有・公開することで、共通認識課題である水質汚濁に取り組むとともに、河北潟の環境活動を広く住民に周知し、住民・関係団体・自治体が支援しあえる協働体制づくりと、その活動の結集軸となりうるシンボリックな事業を創出することで、地域住民の安心・安全な町づくり・河北潟の再生を目指すものです。

### 2 事業の概要

河北潟にソーラー環境センサーを設置し、濁度等の水質改善対策に必要なデータを採取します。取得したデータはデータベースに蓄積し、環境ポータルサイトで広く公開することで、誰でも自由にその環境データを利用可能とし、常時水質監視可能な環境を整備します。

本事業の推進については、連携主体、NPO、地元関係者、企業等で構成する協議会を設置し、河北潟の水質改善に寄与するICTシステムの利活用方法を検討するとともに、導入したシステムを活用したICT研修・環境研修を実施することで、地域の環境保全意識の醸成とICT人材の裾野の拡大を図るものです。

### 3 事業の実施概要（詳細は次ページ以降参照）

本事業では河北潟に太陽光発電で駆動するソーラー環境センサーを設置し、濁度・溶存酸素量・太陽光発電量を計測しています。また湖岸に日射計・気温計・ネットワークカメラを設置し、全ての環境データを環境データ収集端末に集積しています。集積データは環境情報公開端末で現地公開すると同時に、環境ポータルサイトからインターネット発信し、誰でも自由にその環境データを利用可能としています。（7/5～26の累計1,875アクセス）

また、環境研修を組み合わせたICT人材研修は、教育機関・環境団体・行政機関・地元企業等を対象に17回開催し、401人の方に参加頂いています。この研修で育成した人材については各人がそれぞれの立場で、育成されたスキルを活用し、本事業で導入した環境ポータルサイトの説明などのPRや利用支援を行うことで事業の裾野を拡大しています。

# I 人材育成・活用成果

## 1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容

### ① ICT人材の育成人数

本事業におけるICT人材の育成人数は合計401人です。育成人材の属性ならびに属性ごとの人員数は以下の表のとおりです。

属性	児童・生徒	学生	環境団体
対象	大根布小学校 鶴ヶ丘小学校 内灘中学校	石川高専	地球温暖化協議会 河北潟自然再生協議会 河北潟沿岸土地改良区 河北潟湖沼研究所 河北潟水質検査ボランティア 河北潟干拓土地改良区
育成人数	156人	113人	31人

属性	女性団体	地元企業	行政職員（教員含む）
対象	金沢市校下婦連協議会	NTT西日本 日本空調北陸 田中昭文堂印刷 アドリブハウス 利水社 東洋設計 エオネックス エーエスピー企画 PIECE 内灘町観光協会	内灘町 金沢市 津幡町 かほく市 石川県 教員
育成人数	38人	30人	33人

### ② ICT人材の育成方法

本事業におけるICT人材の育成方法については、本事業が地域の環境課題に対する取り組みであり、かつ、どの属性の人員においても身近な課題であることから、ICT研修に環境課題に関する研修を組み合わせ実施しました。

ICT人材育成の全体スケジュールは別添資料1-①のとおりです。

研修模様



大根布小学校



鶴ヶ丘小学校



石川高専



婦人会



環境団体



行政職員

### (1) 講師

講師については、ICT研修は主として請負事業者である株式会社NTT西日本一北陸が行い、同時に実施する環境研修については、河北潟で環境活動を実践されている以下の方を招聘し、実施しました。

- 講師1. 高野典礼 石川工業高等専門学校 環境都市工学科 水環境工学 講師
- 講師2. 多田美代 河北潟水質検査ボランティア
- 講師3. 金平 勲 内灘町環境政策アドバイザー、総務省地域情報化アドバイザー
- 講師4. 高橋 久 河北潟自然再生協議会 事務局長
- 講師5. 北村吉弘 石川県情報システム工業会
- 講師6. 菊地清子 内灘町歴史民俗資料館 ボランティア員

### (2) カリキュラム

研修のカリキュラムは前述のとおり、河北潟の水質問題等に関する環境研修とICT利用研修を組み合わせる形式で実施しました。

河北潟の環境課題の調査方法等を実践し、河北潟の水質汚濁の進行を体感し、受講者に地域資源である河北潟に興味を持ってもらったうえで、ICTを活用した環境ポータルサイトの利用方法等を説明し、ICTの利活用により、河北潟の水質状況等が誰でも常時簡単に観測することが可能であることを体験してもらいました。

### (3) 教材

教材については、様々な属性の人員が研修を受講することから、事業の内容をクリアファイルに分かりやすく記載した教材を作成し、全受講者に配布すると同時に、各属性向けに作成した教材を用いました。

研修ツールとしてはパソコンをレンタルし、一人一台利用可能なICT環境を整備しています。また、大根布小学校においては、総務省フューチャースクール実証実験の指定校であることから、タブレットPCと電子黒板（IWB）を連携した授業を実施しました。

## ③ 1で育成等したICT人材の活用人数

1で育成した人材のうち、明らかにその活用効果が把握できる人員数は以下の表のとおり7人です。

属性	環境団体	行政職員	教員
育成人数	3人	3人	1人

#### ④ ICT人材の活用方法

③で記載の人員数については、本事業におけるICT人材研修の講師として、地域におけるICT人材の育成に活用しました。

なお、環境団体職員については、それぞれの団体のICT要員としてそれぞれの団体のメンバーや参加者に対して、本事業で導入した環境ポータルサイトの紹介・説明を行うことで、ICT機器等の操作・利用支援にも従事しています。

また、具体的な活用効果の把握は出来ないものの、児童・学生・女性団体の人員についても、研修後、家庭において家族に対する環境ポータルサイトの紹介を行うことで、家族のICT機器等の操作・利用支援を行っているものと想像できます。

このように、育成された人材が周囲の人材に対し、環境ポータルサイトを紹介することで、(自治体等の)特定地域という枠組みを超え、広域的に、環境意識の啓蒙と同時にICT利活用の裾野も拡大しているものと考えます。

#### ⑤ 次年度以降のICT人材の育成・活用内容(予定)

本事業終了後も以下のとおりICT人材の育成・活用を実施する予定です。

##### (1) ICT人材の育成

###### a. 教育機関での育成

ア. 内灘町内の小学校(5年生時)において現在も実施されている河北潟の環境教育の一環として、本事業で構築した環境ポータルサイトを活用し、河北潟の環境課題を学ぶとともに、ICTの利活用を学びます。

イ. 金沢市内の学校機関において、河北潟を学ぶ際、環境ポータルサイトを活用した授業を行うことで、河北潟の環境課題を学ぶとともに、ICTの利活用を学びます。

###### b. 環境団体での育成

内灘町・金沢市の地域内で活動している環境団体だけではなく、津幡町・かほく市に存在する河北潟に関する活動を行っている環境団体に対しても育成の対象を拡げ、各団体の企画するイベントに併せて、環境ポータルサイトを活用したICTの利活用について研修を行います。

###### c. 地域住民に対する育成

日ごろの行政活動(町内会等への参加、出前講座等)において、環境ポータルサイトの紹介と併せてICTの利活用について研修を行います。

##### (2) ICT人材の活用

###### a. 河北潟UFO事業の普及活動

今年度事業でも実施していますが、育成人材の属性ごとに以下のようなICTスキルを活用した環境活動の普及を進めたいと考えています。

###### ア. 児童・生徒・学生

学校で学んだ環境ポータルサイトの閲覧を家庭でも展開し、家族への紹介によるICTスキルの底上げと環境保護意識の醸成を行います。

イ. 各種団体（女性会、町内会等）

研修で学んだ環境ポータルサイトの閲覧を家庭でも展開し、家族への紹介によるICTスキルの底上げと環境保護意識の醸成を行います。

b. 環境団体による環境ポータルサイトの運営

本事業の今後の展開、自律的・継続的運営体制とも関連しますが、本事業で構築したソーラー環境センサーは河北潟環境活動のシンボルに、環境ポータルサイトは河北潟の環境情報の総合窓口としていきたいと考えています。

この河北潟の環境情報が集積する環境ポータルサイトは、具体的な環境活動に直結する情報源であるため、行政・市民・関連団体の協働推進の立場からも、将来的にはその運営を環境団体へ委託し、環境保護活動の更なる充実を図りたいと考えています。

環境団体においては、当面は、掲載されるデータ等を活用し、本来目的である環境活動の充実を図りつつ、将来的にはICTスキルの更なる向上を行うことで、以下の具体的なスキル活用を考えています。

ア. 住民意見の把握

環境ポータルサイトのアンケート機能を活用し、環境活動に関する住民の意見を集約・分析します。

イ. 各環境団体の採取データの公表

河北潟を舞台に活動する様々な環境団体および各種団体が採取するデータを収集し、環境ポータルサイト上に掲載します。

ウ. コンテンツ更新

環境ポータルに掲載されている情報（新着情報、環境団体紹介、河北潟の紹介、ダウンロードデータ等）の日々更新を行います。

エ. 簡易なトラブル対応

システムに障害が発生した場合の簡易な初期切り分け、故障修理手配を行います。

オ. システム拡充に対する設計サポート

本事業で導入するシステムの更新時・拡充時における新システム設計のサポート（提言）を行います。

## 2 事業運営主体におけるICT人材の育成・活用内容

### ① ICT人材の育成人数

事業運営主体と申請主体が同一であるため、「1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容」と同じです。

### ② ICT人材の育成方法

事業運営主体と申請主体が同一であるため、「1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容」と同じです。

### ③ 1で育成等したICT人材の活用人数

事業運営主体と申請主体が同一であるため、「1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容」と同じです。

#### ④ ICT人材の活用方法

事業運営主体と申請主体が同一であるため、「1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容」と同じです。

#### ⑤ 次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）

事業運営主体と申請主体が同一であるため、「1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容」と同じです。

## II システム構築・活用成果

### 1 構築システム概要

今年度、本事業で構築したシステムは、以下のとおり、大別すると5つのシステムにて構成されています。

#### ① 環境データ公開システム

ソーラー環境センサー及び水位監視システムからネットワーク経由で転送される各種データ（濁度、溶存酸素量、日射量、気温、太陽光発電量、水位映像）を一定間隔で自動的にインターネット上に公開表示します。また加えて、内灘町が保有する雨量データ（雨量観測単独システムの構築は既存システムであり本事業に含まない）、各環境団体が保有する各種環境データ（水温、pH、COD、NH<sub>4</sub>、NO<sub>2</sub>、NO<sub>3</sub>）を公開表示する機能を備えています。

#### ② 環境データ蓄積システム

ソーラー環境センサー及び水位監視システムからネットワーク経由で転送される各種データ（濁度、溶存酸素、日射量、気温、太陽光発電量、水位映像）を一定間隔で取得・蓄積します。また、内灘町が保有する雨量データ、各環境団体が保有する各種環境データ（水温、pH、COD、NH<sub>4</sub>、NO<sub>2</sub>、NO<sub>3</sub>）を取得・蓄積する機能を備えています。

#### ③ ソーラー環境センサー

太陽光発電で駆動する、濁度データ、溶存酸素データを採取するセンサーを河北潟湖面に設置しました。また、河北潟湖岸には気温計、日射計を設置し、各データを測定しています。

#### ④ 水位監視システム

河北潟湖岸にネットワークカメラを設置し、河北潟の水位映像を一定間隔（現在は5分間隔）で環境データ公開システムへ転送しています。

#### ⑤ 環境情報公開端末

河北潟湖岸に設置した環境情報公開端末では、ソーラー環境センサー等で採取し、環境データ蓄積システムに集積された環境データ（濁度、溶存酸素、日射量、気温、太陽光発電量）を1分間隔で更新表示しています。



ソーラー環境センサー

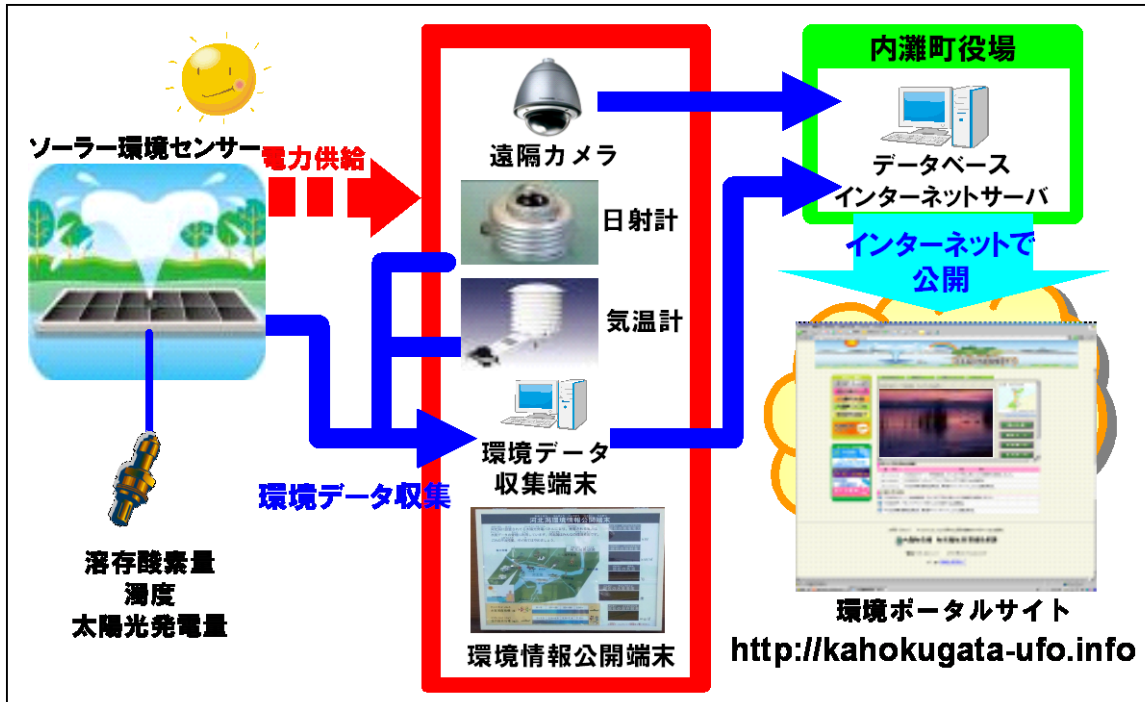


環境情報公開端末



環境ポータルサイト

また、本事業で構築したシステムの概要イメージは以下の図のとおりです。



河北潟UFO事業 システム構成イメージ

## 2 システム設計書

別添2のとおりです。

## 3 システム運用で得られた成果

「V 事業による成果」以外で得られた事業成果としては、ソーラー環境センサーに付属する太陽光パネル洗浄・冷却のための噴水機能を見学するなど、パークゴルファーや犬の散歩、ウォーキングのために蓮湖渚公園に来訪している人たちの憩いの場となっている点があげられます。

#### 4 平成22年度事業実施において明らかとなった課題

実運用が開始されてから僅かな期間ですが、本事業の運用に関して現時点で明らかとなっている課題は以下のとおりです。

##### ① 環境ポータルサイトの更新作業の簡略化

本事業におけるポータルサイトはHTML文で作成しているため、今後の運用・更新を考慮した場合、高スキル者ではない者でも容易に更新等の作業ができるよう、システム上、作業の簡略化が必要だと考えています。

##### ② モバイル端末からの環境ポータルサイトへのアクセス

現在の環境ポータルサイトはPCからの閲覧のみを想定していたため、携帯端末からのアクセスが出来ません。管理者側の更新作業や情報登録作業や閲覧者側の利便性（現地でのデータ閲覧、アンケート回答等）を考慮すると、モバイルアクセス用のコンテンツが必要だと考えています。

##### ③ 事業効果を把握しやすいコンテンツ

本事業で構築した環境ポータルサイトを元に事業の成果測定（アクセス数把握、レポート数把握等）を行う際、現在のコンテンツではアクセスログの手動解析による分析しか方法はありません。この方法では解析に高度な技術と時間を要するため、解析ツール等の導入の必要性を感じています。

##### ④ 水質調査機能の強化

現在のシステムで採取できる環境データは、「濁度、溶存酸素、日射量、気温、太陽光発電量、水位映像」です。環境団体によれば、この採取データ類でも水質調査に関して「役に立つ」とは感じているものの、「これで水質調査に係る全てのデータが揃っているわけではない」という意見もあり、センシング機能の追加等が課題であると考えています。

また、本事業で整備したソーラー環境センサーは河北潟の最下流地域に設置されていることから、水質汚濁調査に関して一定の成果はあるものの、広い河北潟で一拠点だけの測定では分析に限界はあるため、複数拠点での観測機能が必要であると考えています。

##### ⑤ ICT人材育成の拡大・ICT核要員の育成

本事業の計画段階においては、環境団体のICT人材育成について、将来的な裾野の拡大も視野に入れ、まずは核要員を育成したうえで、その後はその核要員を中心に、環境団体において自発的に育成が進むと考えていましたが、現実的にはICTシステムのデータフロー等のイメージ等が理解しにくく、他の団体メンバーを育成する核要員の早期育成（研修を開催できるまでのスキルアップ等）とICTを利活用する団体内の土壌づくりが課題であると感じています。

##### ⑥ WEBアクセシビリティの向上

環境ポータルサイトのコンテンツ完成時、環境データの折れ線グラフ表示について、凡例を色分けだけの表示とし、マーカーはすべて同じ形で表示していたが、色覚障害の方が判断しにくいとの意見からマーカーの形を変えて表示するように変更しアクセシビリティを向上しました。



## 5 自律的・継続的運営の見込み

本事業で導入したシステムおよび仕組みについては、資金計画面、実施体制面において、以下の方法により、自律的・継続的に運営していきます。

### ① 資金計画面における自律的・継続的運営の見込み

本事業の委託機関終了後、後年度費用として内灘町・金沢市にかかる費用は、主に本事業で導入した機器等の保守費用（機器故障の場合）とリース費用およびICT人材育成、通信回線、協議会開催にかかる費用等であり、その合計は概ね年間200万円程度です。

この費用については、基本的に運用主体である内灘町が一般財源により賄う予定ですが、ただし、本事業を活用した収入要素として、河北潟に設置したソーラー環境センサーの太陽光発電による電力を北陸電力に売電する予定があり、試算したところ年間30万円程度の収入となります。このように再生可能なクリーンエネルギーを活用して事業の運営に必要な資金が流入する仕組みを整えることは、「地域の自給力と創富力を高める地域主権型社会」の構築を目指す「緑の分権改革」の第一歩と考えています。

同時に内灘町として、支出の削減を推進するため、環境センサーのメンテナンス、環境ポータルサイトのコンテンツ更新等については人材育成を行い、当面は行政職員が直接実施する予定です。また、従来、環境団体に委託し採取していた水質データ等を本事業で導入したソーラー環境センサーが一部自動的に採取するため、その費用についての削減も期待できます。

このような事業収支の精査と人材育成によるICTスキル等の向上により、継続的な事業運営を行っていききたいと考えています。

### ② 実施体制面における自律的・継続的運営の見込み

本事業の運営については、河北潟環境情報協議会を設置し、その事業内容について協議会に諮りつつ事業を進めてきましたが、協議会自体は本事業の委託機関の終了と同時に解散することとなります。

しかしながら、本事業で構築したシステム全体を環境保護活動の実態に即した型で運営していくためには、行政主導の運営スタイルではなく、民間団体や住民も交えた運営主体による事業運営が最適であると考えます。

したがって、委託期間中の協議会は解散するものの、その機能を既存の協議機関に統合するか、もしくは新たに協議会を発足し、継続的な事業運営を行っていききたいと考えています。

また、システムの自律的・継続的運営については、ICT人材育成を継続的に実施することで、⑤（２）ICT人材の活用に記載のとおり、将来的には環境団体による環境ポータルサイトの運営を目指します。

## 6 今後の展開方針

河北潟UFO事業の今後の展開については、前述のとおり、ソーラー環境センサーを河北潟環境活動のシンボルとしつつ、可能な限りの採取データの充実を行い、環境ポータルサイトを、真に地域住民・環境団体にとって使い勝手の良い、環境活動に直結したものに発展させ、ICT人材の育成と併せて、行政・環境団体・地域住民の「協働のプラットフォーム」としたいと考えています。具体的な導入機能等の展開方針は以下のとおりです。

### ① ソーラー環境センサー

本事業で導入したセンサーに加え、環境団体による環境保護活動に活かせる（活動の拡充に直結し、かつ負担軽減につながる）センシング機能の拡充を行っていきたいと考えています。

また、搭載している太陽光発電機能についても、発電電力の導入システム利用や売電のほか、電動自転車のサイクルシェアやEVの導入など、他の環境関連事業にも活用していきたいと考えています。

### ② 環境ポータルサイト

現在掲載されている環境データは、環境活動にとって、必要最低限のデータであると考えています。今後は新たな協議体制において、有識者・環境団体等の意見を募り、内灘町・金沢市の保有する環境データだけではなく、周辺2市2町に石川県のデータ等も取り込むなど、環境活動の拡充に直結したものに発展・自律させていきたいと考えています。

また、「4 平成22年度事業実施において明らかとなった課題」に記載の課題を解消しつつ、本ポータルサイトが、環境活動に関する、行政・環境団体・地域住民間の交流の場となるよう、双方向型の運用を模索していきます。

### ③ ICT人材育成

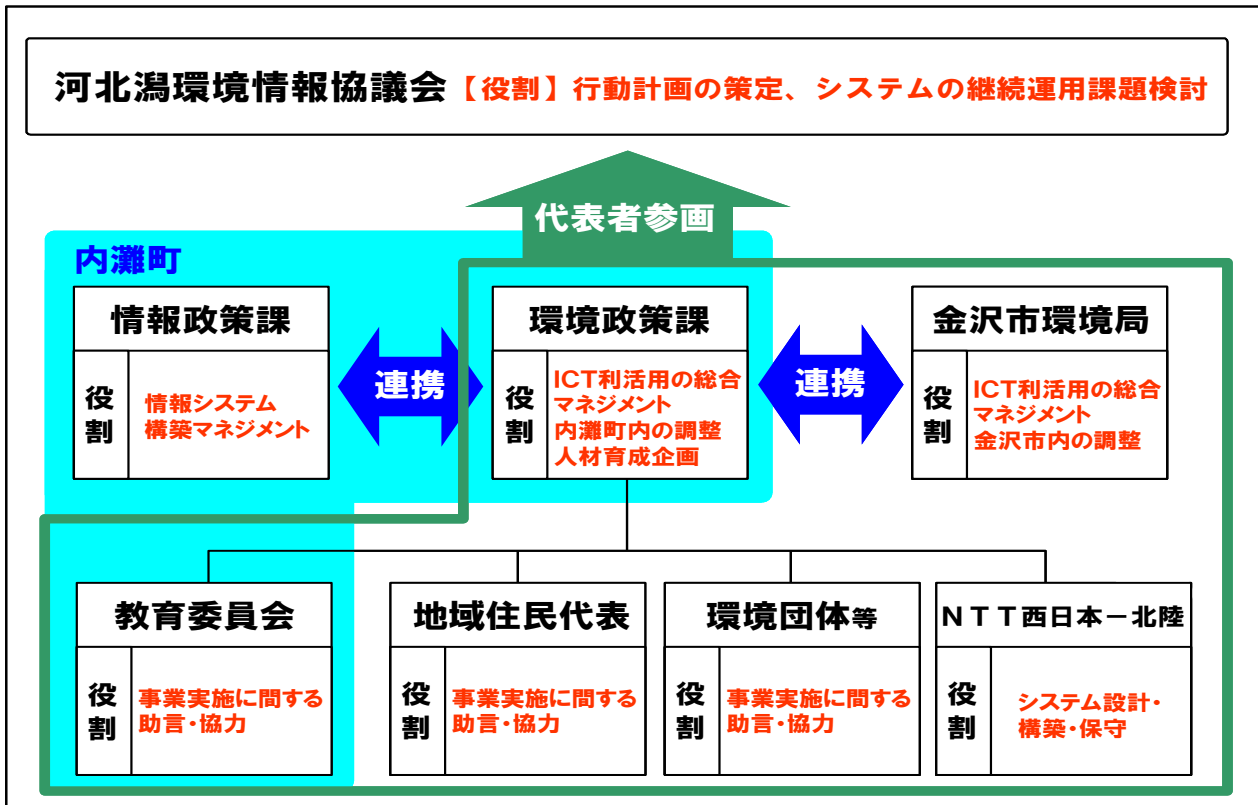
ICT人材育成については、これも「1 申請主体におけるICT人材の育成・活用内容 ⑤次年度以降のICT人材の育成・活用内容（予定）」に記載のとおり、今後とも継続的に企画・実践し、ICT人材の裾野を広げるとともに、「4 平成22年度事業実施において明らかとなった課題」に記載の「ICT人材を育成できる人材の育成」を行っていきたいと考えています。

以上の展開方針に基づき、今後とも事業の発展・拡大を目指し、継続的に事業を展開していきたいと考えています。

本事業において、「ICTの利活用」と「ICT人材育成」については、車の両輪のような存在であり、「使いたいシステム」と「使える人材」をともに開発していくことこそ、事業の目的である「地域住民の環境保全意識を向上」させ、行政・環境団体・地域住民の協働意識を醸成し、「地域力の向上」という緑の分権につながる第一歩であると考えています。

### Ⅲ 実施体制

#### 1 実施体制



#### 2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	河北潟環境情報協議会	行動計画の策定、システムの継続運用課題検討
2	内灘町環境政策課	ICT利活用の総合マネージメントを実施 内灘町内での必要な調整、人材育成企画
3	金沢市環境局	事業実施に関する助言・協力、金沢市内での必要な調整
4	内灘町情報政策課	情報システム構築マネージメントを実施
5	内灘町教育委員会	事業実施に関する助言・協力
6	地域住民代表	事業実施に関する助言・協力
7	各種環境団体	事業実施に関する助言・協力
8	NTT西日本-北陸（委託事業者）	システム設計・構築・保守

### 3 事業実施進行表

実施内容	2月	3月	4月	5月	6月	7月
協議会等開催		準備会 ▲	▲		▲	▲
システム構成の検討・決定	→	→				
システム構築に係る入札		→				
システム設計・構築			→	→	→	→
システム稼働						→
人材育成講習会						→
事業の成果測定						→
報告書作成						→

## IV 本事業に関する周知・広報等

### 1 本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

- ① 河北潟自然環境情報サイト：<http://kahokugata-ufo.info>  
本事業で構築したサイトです。
- ② 内灘町HP：<http://www.town.uchinada.lg.jp/>  
事業運営主体である内灘町のホームページです。

### 2 メディア等での紹介

#### ① 新聞記事での紹介

本事業の新聞記事での紹介は以下のとおりです。新聞記事等の詳細については別添資料1-②に付属いたします。

- (1) 北国新聞／2011年2月22日
- (2) 北国新聞（きた版）／2011年7月13日／28面
- (3) 北陸中日新聞／2011年7月22日／17面
- (4) 建設工業新聞／2011年7月22日／（石川版）2面
- (5) 北国新聞／2011年7月23日／27面

#### ② テレビでの紹介

本事業のテレビでの紹介は以下のとおりです。

- (1) 北陸朝日放送／2011年7月22日（金）20:54～ HABニューススカッシュ

### 3 その他

事業の実施状況（写真）については別添資料1-③、事業概要図は別添資料1-④に付属いたします。

## V 事業による成果

### 1 事業による成果（アウトプット指標）

項目	成果指数	成果指数に関する説明等	調査時期	結果についての分析等
NPO 法人等各種環境団体の参加数	6 団体	環境ポータルサイト上で主な活動内容の紹介やサイトの URL 等を掲載している環境団体の数	2011年7月	現在、河北潟を囲む4市町村では35団体のNPO法人等の環境団体が活動しており、うち下記の6団体のリンクを掲載し、活動内容を紹介しています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・河北潟自然再生協議会</li> <li>・河北潟湖沼研究所</li> <li>・河北潟干拓土地改良区</li> <li>・河北潟水質検査ボランティア</li> <li>・河北潟水質浄化連絡協議会</li> <li>・内灘町歴史民俗資料館</li> </ul> 今後、環境ポータルサイト内コンテンツのさらなる充実を目的とした環境団体のリンク追加等が必要と考えています。
利用者登録数	106人	環境ポータルサイトをお気に入り登録している住民、環境団体の数	2011年7月5日 ～2011年7月27日	学生・環境団体・女性団体・地元企業・行政職員等を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「環境ポータルサイトをお気に入り登録したい」と回答した数、比率は以下のとおりでした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・お気に入り登録したいと回答した数：106／199</li> <li>・お気に入り登録したいと回答した比率：53.3%</li> </ul> この結果から、研修参加者の半数程度しか「お気に入り登録したい」と答えていないことから、今後その理由の分析（住民、環境団体が必要とするコンテンツ把握等）をWebアンケート等を活用して行い、改善にむけた取り組みが必要と考えています。
利用件数	1,875アクセス	環境ポータルサイトのアクセス数	2011年7月5日 ～2011年7月26日	環境ポータルサイトのアクセスログを分析したところ、調査期間におけるトップページへのアクセス数は累計1,875アクセスでした。 これは当初計画目標である、環境ポータルサイト閲覧数累計1,000アクセスを超えるものであり、ICT人材研修などのPR活動が順調に効果を発揮しているものと考えています。

				います。
情報発信件数	<p>発信データ数： 13項目</p> <p>種類（更新頻度）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・溶存酸素（1時間）</li> <li>・濁度（1時間）</li> <li>・気温（1時間）</li> <li>・日射量（1時間）</li> <li>・発電電力（1時間）</li> <li>・時間雨量（1時間）</li> <li>・10分間雨量（10分）</li> <li>・水温（3ヶ月）</li> <li>・pH（3ヶ月）</li> <li>・COD（3ヶ月）</li> <li>・NH4（3ヶ月）</li> <li>・NO2（3ヶ月）</li> <li>・NO3（3ヶ月）</li> </ul>	環境ポータルサイト上で公開している環境データの数と種類、及び各データの更新頻度	2011年7月	<p>発信データ数13については、当初計画時より増えてはいるものの、環境団体にとっての利用頻度等を考慮し、その充実については今後の課題であると認識しています。</p> <p>また更新頻度については、ソーラー環境センサーにセンサー機能を搭載している値については細やかな採取・公開が可能であるが、COD等の値については環境団体が手作業で採取した値を掲載しているため、更新頻度の間隔が長くなっています。この点についてもデータ採取の技術的な課題をクリアし、いかに更新頻度の間隔を短期化できるかが課題であると認識しています。</p>
環境保護意識の高さ	<p>学生・環境団体・女性団体・地元企業・行政職員の河北潟水質浄化に関する関心度： 80%</p> <p>児童・生徒を対象とした河北潟の水質浄化に関する関心度： 100%</p>	地域住民の河北潟再生に関する環境保護意識の高さ	2011年7月5日 ～2011年7月27日	<p>学生・環境団体・女性団体・地元企業・行政職員を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「河北潟の水質浄化について関心がある」と回答した数および比率は下記のとおりでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心があると回答した数：156/195</li> <li>・関心があると回答した比率：80%</li> </ul> <p>また、同アンケートにおいて「研修により河北潟の水に関する関心度が向上した」と回答した数および比率は下記のとおりでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心度が向上したと回答した数：178/192</li> <li>・関心度が向上したと回答した比率：92.7%</li> </ul> <p>また、児童・生徒を対象としたICT人材育成研修アンケ</p>

				<p>ートにおいて「河北潟の水がきれいになればいいと思う」と回答した数および比率は下記のとおりでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいになればいいと回答した数 : 154 / 154</li> <li>・きれいになればいいと回答した比率 : 100%</li> </ul> <p>上記の結果から「河北潟の水質浄化に関する関心は総じて高い」と判断できますが、本事業による育成研修直後のアンケート結果であることから、その関心度の効率維持が今後の課題であると認識しています。</p>
環境活動数	ICT人材研修 開催数: 17回 対象人数: 計401人	環境ポータルサイト上で公開している環境データを用いた環境活動の数	2011年7月5日 ～2011年7月27日	<p>以下の属性を対象としたICT人材研修を計17回、計401人を対象に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、生徒: 6回 / 計156人</li> <li>・高専生対象: 3回 / 計113人</li> <li>・環境団体 : 2回 / 計31人</li> <li>・女性団体 : 1回 / 計38人</li> <li>・地元企業 : 3回 / 計30人</li> <li>・行政職員 : 2回 / 計33人</li> </ul>
事業収入額	取得不可能	ソーラー環境センサーが太陽光発電を行って得られる電気を売電した額	2011年7月	<p>事業による収入については当初ソーラー環境センサーで発電した電力の売電による収入を見込んでいましたが、総務省より「委託期間中の売電は許可しない」との指示があり、売電は実施しませんでした。</p>
一人あたりの利用頻度・リピート率	約30%	一人あたりの環境ポータルサイトの利用頻度・リピート率	2011年7月5日 ～2011年7月26日	<p>環境ポータルサイトのアクセスログより、リピート率(別日における同一IPアドレスからのアクセス比率)は約30%でした。</p> <p>また、学生・環境団体・女性団体・地元企業・行政職員を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「環境ポータルサイトにまたアクセスしたい」と回答した数および比率は下記のとおりでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・またアクセスしたいと回答した数 : 142 / 201</li> <li>・またアクセスしたいと回答した比率 : 約71%</li> </ul>

				<p>同様に、児童・生徒を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「環境ポータルサイトにまたアクセスしたい」と回答した数および比率は下記のとおりでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・またアクセスしたいと回答した数 : 147/154</li> <li>・またアクセスしたいと回答した比率: 約95%</li> </ul> <p>総アンケート回答者数のうち、約81%の回答者から環境ポータルサイト活用のリポートが期待できるものの、実際に繰り返しアクセスがあったのは約30%だったということから、「実際見てみると興味のあるコンテンツではなかった」という分析ができ、今後リポートしたくなるコンテンツの提供が課題であると認識しています。</p>
環境教育数	ICT人材研修 開催数: 17回 対象人数: 計401人	環境ポータルサイト上で公開している環境データを活用した教育の実施数	2011年7月5日 ～2011年7月27日	<p>以下の属性を対象としたICT人材研修を計17回、計401人を対象に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、生徒: 6回/計156人</li> <li>・高専生対象: 3回/計113人</li> <li>・環境団体 : 2回/計31人</li> <li>・女性団体 : 1回/計38人</li> <li>・地元企業 : 3回/計30人</li> <li>・行政職員 : 2回/計33人</li> </ul>
市民の環境データを利用した環境活動数	ICT人材研修 開催数: 17回 対象人数: 計401人	環境ポータルサイト上で公開している環境データを活用した市民活動の実施数	2011年7月5日 ～2011年7月27日	<p>以下の属性を対象としたICT人材研修を計17回、計401人を対象に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、生徒: 6回/計156人</li> <li>・高専生対象: 3回/計113人</li> <li>・環境団体 : 2回/計31人</li> <li>・女性団体 : 1回/計38人</li> <li>・地元企業 : 3回/計30人</li> <li>・行政職員 : 2回/計33人</li> </ul>



## 2 事業による社会的効果等（アウトカム指標）

以下の表には、別途総務省より設定を依頼いたしました評価指標（アウトカム）について記載してください。また、その際設定された指標以外に記載できる指標等があれば記載すること。

項目	事業成果	調査内容	算出方法	調査時期	結果についての分析
河北潟に関するイベントの開催数	5件増加 前：6件 後：11件	前後：「地域イベント」の定義を、河北潟の環境関連イベントだけに限らず、地域資源としての河北潟をテーマとした全てのイベントとし、開催件数を調査する。	2011年7月の調査で取得した河北潟をテーマとしたイベントの開催件数について、2010年7月における同イベントの開催件数と前後比較を行う。 【算出式】 地域イベントの開催増減数＝（今年度の4～7月までのイベント開催件数（後））－（昨年度の4～7月までのイベント開催件数（前））	前：2010年4月～7月 後：2011年4月～7月	河北潟をテーマとして開催された4ヶ月（4月～7月）あたりのイベント数が、昨年度と比較して5件増加しました。 増加分のイベントは「ノルディックウォーク大会」「もぎとり市2回」「農業体験」「ライブコンサート」であり、内容的にはいずれも本事業との親和性が低いですが、地域資源としての河北潟に対する関心の高まりが影響していることは間違いなく、今後のイベント開催においてもソーラー環境センサーを活用した企画等を検討する必要があると認識しています。
内灘町への来訪者の滞在時間	32分／1回あたりの平均滞在時間増加 1回あたりの平均滞在時間 後185分／人 前153分／人＝32分／人	滞在時間を「内灘町内における滞在時間」と定義し、アンケートを実施する。 前：内灘町観光調査結果（平成22年1月～12月） 後：内灘町来訪者に対するアンケートの実施	事業前の1回あたりの平均滞在時間と、事業後の1回あたりの平均滞在時間を算出し、前後比較を行う。 【算出式】 1回あたりの平均滞在時間の増減＝1回あたりの平均滞在時間（後）－1回あたりの平均滞在時間（前） 1回あたりの平均滞在時間（前後）＝累積滞在時間÷調査回答人数	前：2010年1月～12月 後：2011年7月	内灘町における観光客の1回あたりの平均滞在時間が、昨年度調査時と比較して約32分増加していました。 これは、従来の来訪目的以外に、内灘町蓮湖渚公園内に設置したソーラー環境センサー、環境情報公開端末の見学という滞在目的が追加されたことによる地域資源としての河北潟に対する関心の高まりや、来訪者の滞在時間が伸びたことによる地域（観光）収入の増加につながると期待できます。

<p>内灘町への来訪者の訪問箇所数</p>	<p>0.5 箇所減少／1 回あたりの平均訪問箇所数</p> <p>1 回あたりの平均訪問箇所数 後 4.2 箇所／人 —前 4.7 箇所／人＝▲0.5 箇所／人</p>	<p>来訪者の訪問箇所数を「内灘町内において訪問した観光施設数」と定義し、アンケートを実施する。(複数回答あり)</p> <p>前:内灘町観光調査結果(平成 22 年 1 月～12 月) 後:内灘町来訪者に対するアンケートの実施</p>	<p>事業前の 1 回あたりの平均訪問箇所数と、事業後の 1 回あたりの平均訪問箇所数を算出し、前後比較を行う。</p> <p>【算出式】 1 回あたりの平均訪問箇所数の増減＝1 回あたりの平均訪問箇所数(後)－1 回あたりの平均訪問箇所数(前) 1 回あたりの平均訪問箇所数(前後)＝累積訪問箇所数÷調査回答人数</p>	<p>前:2010年 1月～12月 後:2011年 7月</p>	<p>内灘町における観光客の 1 回あたりの平均訪問箇所数が、昨年度調査時と比較して約 0.5 箇所減少しました。</p> <p>しかしながら、訪問した観光施設のうち「河北潟または河北潟干拓地」を訪問した割合が、昨年度調査時と比較して 5.3%増加しました。</p> <p>これは、内灘町蓮湖渚公園内に設置したソーラー環境センサー、環境情報公開端末の見学に観光客が訪問する割合が増えたことによるものと期待できます。</p> <p>今後は、ソーラー環境センサー、環境情報公開端末のPR活動の充実と併せて、来訪者が河北潟または河北潟干拓地を訪問した後で、他の観光施設にも立ち寄ることができるような取り組みを検討することで、地域(観光)収入の増加につながると期待できます。</p>
<p>観光収入</p>	<p>約 5 6 2 万円／月 増加</p> <p>後 2007 万—前 1445 万＝562 万</p>	<p>前後:「観光収入」を各施設におけるサービス収入および物品販売収入と定義し、河北潟を囲む代表的な施設における観光収入額を調査する。</p>	<p>2011 年 7 月の調査で取得した河北潟を囲む代表的な施設の観光収入額について、2010 年 7 月における同収入額と前後比較を行う。</p>	<p>前:2010年 7月 後:2011年 7月</p>	<p>観光客が集まる、以下の内灘町の河北潟を囲む代表的な施設における売上高が、昨年調査と比較して約 5 6 2 万円／月増加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅内灘サンセットパーク</li> <li>・内灘町サイクリングターミナル</li> <li>・内灘町歴史民俗資料館</li> </ul> <p>※ただし、2011年の売上高は7月1日～7月26日までの集計であり、31日分のみなし売上高として計算しています。</p>
<p>内灘町への来訪者数</p>	<p>2 5 2 1 人／月 増加</p> <p>後 40686 人—前 38165 人＝2521 人</p>	<p>前後:内灘町への来訪者数を「河北潟を囲む代表的な施設への来訪者数」と定義し、各観光施設への入込客数を調査する。</p>	<p>2011 年 7 月の調査で取得した河北潟を囲む代表的な施設の入込客数について、2010 年 7 月における入込客数と前後比較を行う。</p>	<p>前:2010年 7月 後:2011年 7月</p>	<p>観光客が集まる、以下の内灘町の河北潟を囲む代表的な施設における入込客数が、昨年調査と比較して 2 5 2 1 人／月増加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅内灘サンセットパーク</li> <li>・内灘町サイクリングターミナル</li> <li>・内灘町歴史民俗資料館</li> </ul> <p>※ただし、2011年の入込客数は7月1日～7月26日までの集計であり、31日分のみなし入込客数として計算しています。</p> <p>前述の「観光収入」「河北潟に関するイベントの開催数」についても、本項目と関連し、イベント参加などによる内灘町への来訪</p>

					者が増えたことによる観光収入の増加と推測できる。内灘町への来訪者が増えることにより、訪問率の高い「河北潟」への来訪者も増加し、ソーラー環境センサー、環境情報公開端末の認知度も高まることで、さらなる河北潟の環境意識の向上にもつながると想定できます。
農産品・特産品の売上高	約39万円/月増加 後 2960897 円— 前 2566667 円= 394230 円	前後：農産品・特産品の売上高を「直売所等における地元産商品の売上高」と定義し、内灘町において地元農産物・特産品を販売している施設での該当商品の売上高を調査する。	2011年7月の調査で取得した直売所等における地元産商品の売上高について、2010年7月における売上高と前後比較を行う。	前：2010年7月 後：2011年7月	内灘町の農産物・特産品を扱う道の駅内灘サンセットパークにおける地元産商品の売上高が、昨年調査と比較して約39万円/月増加しました。 ※ただし、2011年の売上高は7月1日～7月26日までの集計であり、31日分のみなし売上高として計算しています。
農産品・特産品の付加価値増加率	約31万円/月の増加価格向上 後 715385 円— 前 400000 円= 315385 円	前後：農産品・特産品の付加価値を「直売所等における地元ブランド商品の価格または売上高」と定義し、内灘町において地元農産物・特産品を利用しブランド化している施設での該当商品の価格または売上高を調査する。	2011年7月の調査で取得した直売所等における地元ブランド食品の価格または売上高について、2010年7月における価格または売上高と前後比較を行う。	前：2010年7月 後：2011年7月	内灘町の農産物・特産品を扱う道の駅内灘サンセットパークにおける地元ブランド食品（内灘カレー、内灘牛乳ラーメン等）の売上高が、昨年調査と比較して約31万円/月増加しました。 ※ただし、2011年の売上高は7月1日～7月26日までの集計であり、31日分のみなし売上高として計算しています。  地元農産物・特産品を扱う道の駅内灘サンセットパークでの売上高全体も増加していますが、特徴的なのは地元ブランド食品（内灘カレー、内灘牛乳ラーメン）の売上増です。内灘カレー、内灘牛乳ラーメンはともに河北潟干拓地の牛（肉・牛乳）を使ったメニューであり、河北潟の認知度向上を推測することが可能です。
環境保全の活動内容に対する認知率	活動内容認知率：29%	前後：水質向上などの取り組みを行っている環境団体の活動について知っているかをアンケートにて調査する	「水質向上などの取り組みを行っている環境団体の活動について知っている」という回答した数の前後比較を行う。  【算出式】 ・水質向上などの取り組み	2011年7月	学生・環境団体・女性団体・地元企業・行政職員を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「水質向上などの取り組みを行っている環境団体の活動について知っていた」と回答した数は56/191、知っていた比率は29%と環境保全活動内容に対する認知率は3割以下でした。  過去に「水質向上などの取り組みを行っている環境団体の活動に関する認知率」アンケートを取得していないため、前後での比較

			を行っている環境団体の活動について知っている と回答した数÷アンケート 総数の前後比較		分析はできませんでしたが、今後、地域住民が環境ポータルサイトを閲覧し、環境団体の存在および環境団体等による環境保全活動をPRし、関心を向上させることが必要であると認識しています。
環境保全活動への参加率	15.2%増 後 48.2%－ 前 32.3%＝ 15.2%	前後:環境保全活動への参加率を「地域の美化活動などの取組みに参加した、または参加したい」と答えた人数定義し、アンケートを実施する。	2006年3月、2011年7月の調査で取得した「環境保全活動の参加率」の前後比較を行う。  【算出式】 環境保全活動の参加率の向上＝環境保全活動の参加率(後)－環境保全活動の参加率(前)  環境保全活動の参加率の算出方法は以下の通り 美化活動などの取組みに参加した、または参加したいと回答した数÷アンケート総数	前:2006年3月 後:2011年7月	学生・環境団体・女性団体・地元企業・行政職員を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「環境保全活動に参加したことがある」と回答した数は93/193、参加したことがある比率は48.2%と、2006年の内灘町環境基本計画で「海岸清掃などの環境保全活動に協力する」と回答した比率の32.3%と比較して、15.9%増加している。  このことは社会全体の環境保全意識の向上にも起因するところであるが、これまでの環境活動、加えて本事業で整備したソーラー環境センサー、環境情報公開端末、環境ポータルサイトも少なからず寄与しているものと考えます。
NPO等各種環境団体の認知率	環境団体認知率:44.5%	前後:河北潟の水質向上などの環境保全活動が行われていることを知っていましたかという項目でアンケートを実施する	「水質向上などの環境保全活動が行われていることを知っている」と回答した比率の前後比較を行う。  【算出式】 ・水質向上などの環境保全活動が行われているこ	2011年7月	学生・環境団体・女性団体・地元企業・行政職員を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「水質向上などの環境保全活動が行われていることを知っていた」と回答した数は89/200、知っていた比率は44.5%と環境保全活動内容に対する認知率は半数以下にとどまっています。  過去に「水質向上などの環境保全活動が行われていることの認知率」アンケートを取得していないため、前後での比較分析はできませんでしたが、今後、地域住民が環境ポータルサイトを閲覧し、環境団体の存在および環境団体等による環境保全活動をPRし、

			<p>とを知っていたと回答した数(後)÷アンケート総数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質向上などの環境保全活動が行われていることを知っていたと回答した数(前)÷アンケートの総数の比較</li> </ul>		<p>関心を向上させることが必要であると認識しています。</p>
<p>環境団体の活動に係るコストの削減</p>	<p>削減率：57% 削減時間：最大348分／年</p>	<p>「ソーラー環境センサー設置により水質調査の費用、時間等が減少されたか」という項目でアンケートを実施する。</p>	<p>【前：算出式】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーラー環境センサー設置前の、1回あたりの水質濁度測定に必要な時間－環境ポータルサイトで濁度測定値を閲覧する時間</li> <li>・ソーラー環境センサー設置前の、1回あたりの水質濁度測定に必要な費用(人件費)－環境ポータルサイトで濁度測定値を閲覧する費用(人件費)</li> </ul> <p>【後：算出式】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象環境団体が水質濁度の測定に費やす時間の平均値(後)-対象環境団体が水質濁度の測定に費やす時間の平均値(前)÷アンケート総数</li> <li>・対象環境団体が水質濁度の測定に費やす費用の平均値(後)－対象環境団</li> </ul>	<p>2011年7月</p>	<p>河北潟の水質調査を行っている環境団体を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「環境ポータルサイトで公開している環境データが、環境団体における活動の役に立つ」と回答した数は7/7、比率にして100%の方が有効であると判断しています。</p> <p>しかしながら「環境ポータルサイトで公開している環境データを活用することで、水質調査活動のコスト（費用、時間等）が削減する」と回答した数は4/7と57%にとどまりました。</p> <p>「削減する」と回答した方の中で、最大360分（3人×30分×4回／年）の稼働時間が、環境ポータルサイトへのアクセスで12分（3分×4回／年）で環境データを取得できるという結果が得られ、コスト削減につながると考えられます。</p> <p>しかしながら、アンケート結果より「採取データの種別が少ない」「採取箇所が1点であり、データの信憑性に欠ける」など、環境活動に有効ではあるが、独自で行っている水質調査自体が環境ポータルサイトからの環境データの取得に置きかわるまでの効果は得られず、費用削減までの結果を得るには、さらなる環境データの充実が必要です。</p> <p>あわせて、アンケート母数が少ない点から、より多くの環境団体からの意見をWebアンケート等で採取し、分析する必要があります。</p>

			体が水質濁度の測定に費やす費用の平均値(前)÷アンケート総数		
環境ポータルホームページ閲覧数	1,875アクセス	本事業で構築する環境ポータルサイトへのアクセス数を常時測定する。	常時測定している環境ポータルサイトのアクセス数(年間)を用いて、前後比較を行う。	2011年7月5日 ～2011年7月26日	環境ポータルサイトのアクセスログを分析したところ、調査期間におけるトップページへのアクセス数は累計1,875アクセスでした。 これは当初計画目標である、環境ポータルサイト閲覧数累計1,000アクセスを超えるものであり、ICT人材研修などのPR活動が順調に効果を発揮しているものと考えています。
環境保護意識の向上	9%の増加	前後：環境保護意識を「河北潟の水質浄化に対する関心度」と定義し、アンケート調査を行う。	2006年3月と2011年7月のアンケート調査で、河北潟の水質浄化に対する関心度が向上したと回答した比率の前後比較を行う。  【算出式】 水質浄化に関心があると回答した数÷アンケートの総数の前後比較	前：2006年3月 後：2011年7月	学生・環境団体・女性団体・地元企業・行政職員を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「河北潟の水質浄化について関心がある」と回答した数は156/195、比率は80%と、2006年の内灘町環境基本計画で「河北潟の水質調査について関心がある」と回答した比率の71%と比較して、9%増加しています。  上記の結果から「河北潟の水質浄化に関する関心は総じて高い」と判断できますが、本事業による育成研修直後のアンケート結果であることから、その関心度の効率維持が今後の課題であると認識しています。
河北潟の水質向上		前後：環境ポータルサイトで公開している環境データについて前後比較を行い、水質の向上度合いを調査する。	濁度、溶存酸素、pH、COD、NH4、NO2、NO3の7項目について、過去データおよび今後の数値の前後比較を行う。	前：2010年7月 後：2011年7月	2010年7月の環境データと2011年7月の比較した結果は下記のとおりである。 ・「濁度」についてはほぼ横ばい ・「溶存酸素」については酸素量が「前：10」→「後：4.5」と著しく減少している ・「pH」については「前：7」→「後：9.5」と増加している  しかしながら、比較データがピンポイント値であり平均値ではない点や、ソーラー環境センサーが導入されてからまだ日も浅い点から、現時点でソーラー環境センサー導入前後での比較分析は難しいと考えます。  引き続き、継続的にソーラー環境センサーで採取する環境データ

					の比較・分析を行い、効果の検証を実施する必要があると思われます。
--	--	--	--	--	----------------------------------

### 3 目標の進捗率

指標	目標値	結果の数値	計測方法・出展等	調査時期	結果の分析（目標値の結果が大きい）
住民のソーラー環境センサー認知度	80%	94% 進捗率 117%	研修時における「ソーラー環境センサーの働きを理解したか」という項目でのアンケート調査	2011年7月末	アンケート結果では94%という高い認知率（理解度）となったが、これは本事業による育成研修直後のアンケート結果であることから、その関心度の効率維持が今後の課題であり、行政によるPR活動の充実や提供コンテンツの充実など、更なる認知度向上施策の検討が必要であると認識しています。
住民の河北潟水質浄化問題への関心度	75%	80% 進捗率 106%	環境保護意識を「河北潟の水質浄化に対する関心度」という項目でのアンケート調査	2011年7月末	学生・環境団体・女性団体・地元企業・行政職員を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「河北潟の水質浄化について関心がある」と回答した数は156/195、比率は80%と、2006年の内灘町環境基本計画で「河北潟の水質調査について関心がある」と回答した比率の71%と比較して、9%増加しています。 上記の結果から「河北潟の水質浄化に関する関心は総じて高い」と判断できますが、本事業による育成研修直後のアンケート結果であることから、その関心度の効率維持が今後の課題であると認識しています。
環境団体のソーラー環境センサー利用率	50%	100% 進捗率 200%	環境団体に対する「環境ポータルサイトで公開している環境データが、環境団体における活動の役に立つか」という項目でのアンケート調査	2011年7月末	河北潟の水質調査を行っている環境団体を対象としたICT人材育成研修アンケートにおいて「環境ポータルサイトで公開している環境データが、環境団体における活動の役に立つ」と回答した数は7/7、比率にして100%の方が有効であると判断しています。 しかしながら、アンケート結果より「採取データの種別が少ない」「採取箇所が1点であり、データの信憑性に欠ける」など、環境活動に有効ではあるが、独自で行っている水質調査自体が環境ポータルサイトからの環境データの取得に置きかわるまでの効果は得られず、費用削減までの結果を得るには、さらなる環境データの充実が必要です。 あわせて、アンケート母数が少ない点から、より多くの環境団体からの意見をWebアンケート等で採取し、分析する必要があります。
環境団体の活動の向上	20%	57% 進捗率 285%	環境団体に対する「ソーラー環境センサー設置により水質調査の費用、時間等が減少されたか」という項目でのアンケート調査	2011年7月末	「環境ポータルサイトで公開している環境データを活用することで、水質調査活動のコスト（費用、時間等）が削減する」と回答した数は4/7と57%にとどまりました。 「削減する」と回答した方の中で、360分（3人×30分×4回/年）の稼働時間が、環境ポータルサイトへのアクセスで12分（3分×4回/年）で環境データを取得できるという結果が得られ、コスト削減につながると思われます。



環境ポータルホームページ閲覧数	累計 1,000 アクセス	累計 1,875 アクセス 進捗率 187%	環境ポータルサイトのアクセスログ分析	2011年7月末	環境ポータルサイトのアクセスログを分析したところ、調査期間におけるトップページへのアクセス数は累計1,875アクセスでした。 これは当初計画目標である、環境ポータルサイト閲覧数累計1,000アクセスを超えるものであり、ICT人材研修などのPR活動が順調に効果を発揮しているものと考えています。
-----------------	------------------	------------------------------	--------------------	----------	---